

## 第6回東栄町医療のあり方検討委員会 議事録要旨

1. 日 時 平成24年 9 月 27日 (木) 午後7時～午後9時40分
2. 場 所 東栄町役場 会議室
3. 出席者 計23名  
委員20名  
初澤宣亮、佐々木嘉郎、平林光子、伊藤芳孝、平賀英俊、丹羽治男  
鈴木義治、峯田聖子、佐々木徹、佐々木経人、杉山知実、片桐邑司  
熊谷廉太郎、桂木勇、一野瀬忠義、林敏和、藤原隆、村上孝治  
金田久世、石黒紋加  
  
事務局2名  
福祉課 課長 原田英一、保健衛生係長 長谷川伸  
  
その他 1名  
東栄町長 尾林克時
4. 欠席者 6名  
佐々木加津之、三城富子、森イツ子、亀山志津子、鈴木勝美、西尾重光
5. 傍聴人 4名  
青山勝彦、村本敏美、加藤彰男、夏目忠  

(敬称略、順不動)
6. 議 題  
グループ討議  
テーマ「自分らしい最期の迎え方と我が家の将来、地域の将来」  
その他  
今後の開催予定日

(開会 19時00分)

会長

今日で第6回目になり、これまでは、ほぼ勉強会ということで、基礎的な知識を皆さん情報収集していただき、これから本格議論になるかと思う。

この地域全体が目指す方向性、東栄町が目指す方向を大まかに共有できればと思う。

今から3グループに分かれて1時間ほど議論していただき、各グループからの発表をし、うまくまとめられるようであれば、全体の方向性、こんな方向でしていきたいと思う。

事務局

3班に分かれ今からグループワークに入ります。

### 「1班のグループ発表」

(内容は省略)

会長

他のグループからの質問はありますか。

何のために家で最後を迎えるのか。いろいろな施策、考えがあったと思うが何のためか。

委員

日本は昔から畳の上で最後を見届けてやりたいという考えで、自宅がいいとなっているのではないか。

委員

一番落ち着いた死に方ができる。

会長

何が家はいいんですか。

委員

生まれて長い間ここに暮して一番心が安らぐ、安心している場所。だから家で死にたい。

委員

帰る場所。家というのは出掛ける場所でもあり、帰る場所でもある。

委員

女性の方が長生きするので、女房に面倒みてもらえるからというものもある。

会長

家の存続とか、地域の継承は生きがいにならないのか。

みんな生きがいというと楽しみとか、趣味を見つけるなどあるが。

委員

それが楽しいと感じればいいのでは。

会長

現状では、地域で住んでいる人が、生きがいづくりをしましよと話に出ているということは、それが生きがいになっていないということ。

委員

地域活動をしながら、生きがいを求め、家を守っていくとあれば、より生きがい活動として、重要性を増すのではないか。

会長

今、高齢者の方が住んでいる所は、自分がなくなれば家がなくなるし、自分たちが守らなければ地域がなくなるということで、たぶん皆さんの話はそういうことだと思う。

存在そのものが家にも、地域でも必要だと思うが、でもなおかつ、生きがいを求めると言うのは、何か別に得るものが、個人として求めるのかわかりませんが。

委員

地域社会において生きがいづくりは、必要である。

委員

どんな形でもいいと思う。

委員

いくら年寄りでもいろいろ生きがいを求めていくというのはあると思う。

委員

みんなが寄り集まって会話したり、人のつながりをもてる状況を多くするという話。

家から出るきっかけづくり、地域のつながりをつくっていききたいという意見が多かった。

委員

今の東栄町に共同施設を建てたとしても本当に入るのか。

委員

ただ生活をするだけにするのか、そこへ生きがいをもって活動するものがあれば、可能だと思う。

### 「2班のグループ発表」

(内容は省略)

会長

空き家になって、5年10年経つと本当に無残だが、それでも残すのか。どこの家を見てもあつという間に傷む。

### 「3班のグループ発表」

(内容は省略)

委員

今の家として存続は不可能だと思う。その前に東栄町がそれまで存続できるか。10年後20年後を考えた場合に、東栄町を存続させるためには、どうしたらいいかというのがある。

委員

このままいくと、そういうふうになるだろう。死を待つのは困る。なんとかあえぎたい。

会長

自分はぴんぴんころりと死にたいが、地域としてあえいで、いろんなことをやってギリギリまで粘りたいという。

委員

自分ほころっといくのはいいが、地域はここに住む以上衰退はしてほしくない。

会長

悪あがきするのは、地域が悪あがきするのとでは何が違うのか。自分が健康でいるうちはいいが、健康でなかったらころっと行きたいということ。地域が不健全な状態になってそれでも残したい。何か違うようで同じ問題であるような気がする。

委員

ちょっと先生の言いたい意図がつかみにくい。

会長

皆さん何のために生きているのか。研修医の先生に何で治療をするのかと話をする時には必ず、その人が家に帰って、その人の役割を果たすために治療をし、家で死ぬことでその人が最期まで価値を伝えるから、家で最期を迎えるのがいいと教えている。

私自身は家の継承、存続とか、地域の存続、継承を最上位で、地域の課題でもあり、家の課題でもあり、人間としての課題でもあると固く信じているので、そういう路線で病院の運営をしてきた。今、転換期なのでそのままでいいのか。そういう病院、地域づくりも含めて、考え方を変えた方がいいのか。

委員

先生の話は非常に大きな話で、社会構造的なことも含まれている。

会長

何のために病院が必要なのかなと常々思う。また、本当に苦しいことをとるためだけに、皆さん健康でされるのかなと。では、何のために生きていくのかということになる。

委員

今現在、例えば東栄病院なり下川診療所なり関本先生の病院がなかったとすると、ここの町民はどうなるのか。

会長

医療のないところに住めないか。どれぐらいの医療があれば住めるのか。

委員

医療はあってしかるべきと思う。

会長

どれぐらいの医療があれば住めるのか。

委員

少なくとも今ぐらい。

会長

ないと言っても島と違うので、現実的には新城にいけば医療機関がいっぱいある。

委員

行けと言えば簡単なことだが、行けるかどうかということが、大前提としてある。

会長

同じ規模の町で設楽町は病院がない。

委員

診療所がある。

会長

東栄町にも、住む条件として開業医があれば、それで大体最低限の水準はということか。

委員

そうばかりではない。

会長

ちょっと話が違うと思う。

委員

病院に何を求めるかと言われるので、逆に病院がなくなった時に、どう考えるか。

会長

何もなくなることはたぶんない。

委員

皆さんもそう思っているし、そうあるべきだと思う。

会長

与えられた条件の中で、医療機関を活用するかは地域の課題。地域がなにをめざすかによって、働き方が変わってくると思うし、限られた人材の中で、どう活用するかは地域をめざす方向によって変わってくると思う。

委員

地域の課題というのは、東栄町の課題であると思う。

会長

そうです。ずれると、もめる。

委員

ただ我々とする東栄病院があるから、どうしてもそういうイメージがひきずってしまう。

会長

基本的には、今のままの病院は維持できない。10年、20年ということが前提です。最低限どこまでを守りたいのか、条件によってはどこまで縮小していいのかを決めないといけない。選択と言うよりも、必要なものの優先順位づけが必要なので、どういう地域をめざすかによってかわってくると思う。

委員

現状の医療、今の医療サービスというのは守ってほしい。少しでも継続してほしい。

会長

患者さんが減れば経営的に厳しい。働く人がいなければ、機能が果たせない。さすがに、努力の限界というのがあり、建物も人もそうだと思うが、現状はそういうところで、ちょうど建て替えの大きな転換期で、何を選択するのかということになると思う。

委員

打開するための方策はあるかどうかという問題があると思う。それぞれ3班が発表したから、地域を思うものは、ないのかと逆に病院が縮小してもいいのかということ、イコールにするというのは、性急な考え方しすぎるのではないかと。

会長

目指すかどうかというすごく大きな日々苦しいのにもかかわらず、また、苦しいことをしつづける理由、目的があるのかどうかである。

委員

東栄病院を、東栄町の病院という形でなくて、もう少し広い範囲の大きな病院を考えて、検討する道はないのか。

会長

あるが、東栄町民が何を望むかがなければ、他は助けてくれるわけではありません。

委員

それこそ3班で出た町民一人一人が、その気になって自覚をして、みんなで取り組まない  
と、そう簡単にいく話でないし、また、ここに住んでいる以上、そういう努力はしたい。

会長

今の病院を維持し続けるとどんな良いことが東栄町はあるか。

病院が今のままでいけば、果たして町全体にとってプラスになるのかを考える。

委員

希望として、今の現状のような病院を維持したいけど、結局これから話を詰めていくと、  
やっぱり無理だろうと。

会長

自然の経過に合わせた医療機関にしていくのか。多少無理してでも無理な状態を目標にし  
た医療機関にしていくのかというところが、選択肢だと思う。

委員

多少無理をしたぐらいの病院は持ちたい。

会長

本気で目指すかどうか、すごく大事なところで、何のために生きているのか、働いている  
のかということも病院の職員に伝えないと、それこそ生きがい、働きがいのレベルである。  
東栄町は社会的な役割がなければ、本当にお金で釣るしかない。お金で釣るほど豊かでは  
ないので、結局何を守るのかというような話になってくる。今の規模、維持さえというの  
は、何のために維持するのかなというのが疑問だと思うし、町にとってどんなメリットが  
あるのかなと考える。それなりの町全体の将来にプラスになっていくようなものがあれば、  
町の全体の方向にあった医療機関だし、町の目標の下での医療機関の目標になるのかなと  
思う。病院だけ、突出した別物を建ててもしかたない。



常に何のためにと戻りながら議論していただければなと思うし、積み残しされた問題があればグループの中で、話し合いながらということにしたいと思う。

事務局

今後の日程については、丹羽先生とも話し合いながら調整する。

会長

年明けに最終的にたたき台ができたもので、議論し、最終報告というぐらいを考えている。

事務局

第6回東栄町医療のあり方検討委員会を終了いたします。